



[栗山町]

活くりやま森の恵みを 活かそう会

[報告者]



(上) 岩崎芳吉さん
(下) 阿部克門さん



地元の森から産業・文化・資源を創出

私たちは、「森の恵み」こそが地球上のあらゆる生き物を育てていると考え、「森が第一、WOODS FIRST」というキャッチフレーズを掲げました。きれいな水ときれいな空気を提供してくれる日本列島の森は、世界に誇れる森です。これを日本だけでなく、世界に発信していきたいと思っています。そのためにも、まずは地域住民が親むことができる里山をつくり、この森から新たな産業・文化・資源を創出する。それが私たちの目的です。

栗山町は夕張山系の麓に位置し、夕張川の東岸に接しています。札幌・千歳・江別市など道央都市圏と隣り合う農村地帯ですが、近年は山村地区の離農・集落減少などによって、離農跡地や廃校跡地が目立つ状況にあります。

夕張地方には一大炭鉱があり、かつての夕張川は、大量の洗炭廃液によって「汚れた川」の代表格のような川でしたが、閉山から時間が経って、最近では、これも川をとりまく森の恩恵でしょうか、きれいな澄んだ水を取り戻しました。岩見沢市との境界にある堰堤に魚道が設置され、春にサケの稚魚を放流できるようになっています。

そんな栗山町での私たちの活動エリアは、町南部の御園地区(旧御料地)と、街並みを見下ろす御大師山の桜丘地区、それに日の出地区、南角田地区の4つのエリアです。

樹種は豊富で、植林したばかりのシラカバ林やクリ林、15~80年生のカラマツ林やトドマツ林、200年以上手つかずと思われる広葉樹林も残っています。

それらの森で、まず地域内外の人々が気軽に森の中に入れるように林内整備を進めています。具体的には、作業道や遊歩道の草刈り、ツルや不要木の除去といったことです。

また、森の産物を新たに活用したいと思って、薪炭材の生産や、白樺樹液・樹皮の採取に取り組んでいます。さらに、「栗まつり」「植樹祭」「きのこの菌打ち体験」など各種のイベントを開催しています。

地域内外のコミュニケーションを深めて活性化

平成30年度は、御園地区の林内で下草刈り、間伐、枝打ち、植樹、風倒木処理を実施しました(地域環境保全タイプ)。

余談ですが、日本ハムファイターズの栗山英樹監督は栗山町にお住まいで、監督ご自身も私たちの森づくりの活動に参加くださっています。監督に求められて、少年野球のグラウンド「栗の樹ファーム」に、一昨年は「清宮幸太郎選手のモミジ」、昨年は「吉田輝星選手のモミジ」を記念植樹しました。

桜丘地区では、主に薪炭材・ホダ木・コースター材の採取、木炭生産などを行ないました(森林資源利用タイプ)。

南角田地区では間伐を進めており、2019年には植樹祭を開いて、新元号の記念植樹を計画しているところ です。

このほか、地域活性化を促そうと、離農跡地などでクリの苗木を育成しています。クリは、栗山町の名の由来になった樹種です。また北欧での実習経験を生かし、森で採取した白樺樹皮の「かご編み」を普及させたいと考えています。地元自治体の協力を得て、白樺樹液や樹皮採取、炭焼き体験・木工教室・森の音楽会や、「森の働き観察会」などを定期的に開催しています。

里山づくりに理解を示す地域住民は徐々に増えていると思いますが、より多くのリピーターをどう増やすかが目下の課題です。これまで以上に創意工夫を重ね、イベントなどを通して、地域内外の人たちとのコミュニケーションを深めたいと考えています。

